

講義名	国語学		
担当教員	上森 鉄也		
開講期・曜日・時限	後期 金曜日 2時限	授業形態	講義
履修開始年次	1年生	単位数	2
主題と概要 日本語とはどのような言葉であるかを言語学の立場から説明する。国語学は広い分野を持つ学問であるが、半期の科目であるので、日本語で用いられている文字の性格やその文字がどのようにして成立したかなどの文字論、そして音韻論と音声学などを中心に行う。例えは、本義、本義、本義のつは、平仮名や片仮名で表した場合は、すべて同じ文字で書くため、発音もすべて同じであると考えやすいが、実はすべて異なる発音なのである。どうして異なっているといえるのか、異なっているのであれば、どうして同じ発音であると感じ、同じ文字で表記するのかといったことについて考えるのである。また、表記と発音が異なるカナ遣いの問題や「因縁」を「いんえん」と読まず「いんねん」と読むような、一見不合理な国語の現象についても言及する			
到達目標 受講生が、日本語がどのような言語であるか、どのような特色を持っているかを理解し、外国人にも説明できるようにする。			
提出課題 中間試験として、日本語に関するレポート試験を行う。			
課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック 授業において行う。			
評価の基準 中間試験のレポート課題（点数配分20％）と期末試験（点数配分80％）の合計により評価する。レポートは、800～1200字とする。試験は、授業内容を理解しているかどうかを問う問題を出題するが、教科書のみでは正解できないので、授業では必ずノートをとること。なお、レポートのみでは60点に満たないので必ず期末試験を受けること。			
履修にあたっての注意・助言他 「国語学」という科目名は高校までに習っている「国語」と似ているが、「国語学」は日本語を対象とした言語学であり、内容がかなり違うので注意すること。日本語がどのような言語であるのかを知りたいという学生に受講してもらいたい。			

教科書 ・使用しない。				
プリント資料及び参考文献 「国語学」の参考書。プリントは配布しない。				
授業計画 1 授業内容や評価方法の説明。 2 人間はどのようにして言語を学習するか 3 音声とは何か 4 「ん」の発音は全て同じか 5 不正確な発音は理解されるか 6 音韻という考え方 7 音声と音韻の関係 8 日本人はなぜ英語の発音が下手なのか 9 濁音がある仮名とない仮名があるのはなぜか 10 「ウ」の発音はどうなっているのか 11 八行にだけバ行があるのはなぜか 12 ヤ行とリ行はなぜウ音ではないのか 13 「観音」はなぜカンオンではなくカンノンと読むのか 14 日本語はなぜ漢字・平仮名・片仮名を用いるのか 15 授業のまとめと試験の説明				
授業形態（アクティブ・ラーニング）				
ア：PBL（課題解決型学習）		イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）		
ウ：ディスカッション、ディベート		エ：グループワーク		
オ：プレゼンテーション		カ：実習、フィールドワーク		
キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）				
準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間 授業の最後に次回の授業の内容を予告するので、調べておくこと。必要時間は3時間。復習として具体的事例を挙げるので説明できるようにすること。必要時間は1時間。				
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連 日本語の現象について、調査分析し、整理できるようになること。				
双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述				
実務経験の有無及び活用				
備考				